

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ココトモビレッジ楓校			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年3月1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ココトモビレッジ楓校では、身体の発達(特に脳幹部分の発達)を育てることを重視し、2歳から6歳の未就学児と、小学1年生から6年生までのお子さまを対象に支援を行っています。お子さま一人ひとりの発達段階を丁寧に見極めながら、基礎となる身体の発達を整えることで、学びや社会性の土台を築いていきます。	身体の発達を重視し、ブレインジムや原始反射の統合、感覚統合、動きの4段階など科学的根拠に基づいたプログラムをメイン遊びの中で導入しています。発達の土台となる身体づくりに力を入れており、子どもたちの成長を根本からサポートしています。	さらに、療育整体を取り入れ、お子様の無理なく発達できる体づくりを保護者様と一緒に目指していきます。
2	ペアレントトレーニング・親子イベントの開催。	現在、月1回×10開催のペアトレは、家庭で楽しく遊びながら実践できるように座学と原始反射や感覚統合遊びを取り入れたプログラムです。また、保護者様のディスカッションの時間を多く取り、実践例や療育・病院・学校や保育園等の情報交換が出来るよう配慮しています。また、修了された方の学びの継続と保護者様の交流の場を年2回、開催しております。	2025年度には、保護者様同士がより気軽に交流できる機会を増やすとともに、きょうだい同士での交流イベントも企画しております。
3	TEACCH・ABA・PECS等を取り入れた視覚的構造化・応用行動分析・絵カードでのコミュニケーション等のアイテムを随時更新し、子ども達に安心な過ごしやすい環境作りを行っています。	活動による空間の間仕切り。時間割。タイムタイマー。時間・活動の使い分けによる部屋の施設。倉庫内・事務所の保管玩具の貸し出し絵カードコミュニケーションツール・活動時の絵カード提示・すぐ伸びタイム時のBGM等を活用しています。	楓校の流れや活動の目的を踏まえて子ども達に分かりやすく伝えるよう、今以上に準備・振り返りをスタッフ間で密にし、子どもの発達段階に応じた支援グッズを作ったり、研修を行っています。2025年度からはトークンエコノミーを活用し、子ども達のモチベーションを上げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎の制限がある点	児童発達支援では送迎がなく、保護者様送迎が必須となります。	今年度、試して年長児童に限り、引き続き放デイをご利用希望の方に、放デイの体験利用としまして(保護者様の就労状況によって)、保育園への送迎を行ってみました。2025年度も保護者様のご要望・ご意見をお聞きしながらこのサービスを検討してまいります。
2	認知度	「遊び療育」の重要性がうまく伝わらない・現代社会では子供の将来のために学習の重要性が強調されていることが多く「遊び」は学習の前段階として軽視されがちな事が要因かと思います。	①親子向け体験会②保護者向け講座③地域の子育て支援センターや児童館と連携。特に「親子で体験できる場」を作り「楽しいのに発達に良い!」と感じてもらい、少しずつ遊び療育の輪を広げていくイベントを検討していきます。
3			